

### 第1問 (20点)

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、次の中から最も適当と思われるものを選び、正確に記入すること。

|       |       |       |      |           |
|-------|-------|-------|------|-----------|
| 現金    | 普通預金  | 受取手形  | 売掛け金 | 前払金       |
| 仮払消費税 | 仮払金   | 受取商品券 | 備品   | 支払手形      |
| 買掛金   | 前受金   | 仮受消費税 | 借入金  | 備品減価償却累計額 |
| 資本金   | 売上    | 受取手数料 | 受取利息 | 固定資産売却益   |
| 仕入    | 旅費交通費 | 消耗品費  | 支払利息 | 固定資産売却損   |

- 秋田株式会社に対する買掛け金 ¥ 270,000 の決済として、同社への約束手形を振り出した。
- 商品 ¥ 16,000 を売り上げ、消費税 ¥ 1,600 を含めた合計額のうち ¥ 7,600 は現金で受け取り、残額は共通商品券を受け取った。なお、消費税は税抜方式で記帳する。
- 従業員が事業用の IC カードから旅費交通費 ¥ 2,600 および消耗品費 ¥ 700 を支払った。なお、IC カードのチャージ（入金）については、チャージ時に仮払金勘定で処理している。
- 不用になった備品（取得原価 ¥ 660,000、減価償却累計額 ¥ 561,000、間接法で記帳）を ¥ 3,000 で売却し、売却代金は現金で受け取った。
- 普通預金口座に利息 ¥ 300 が入金された。

### 第2問 (8点)

次の現金出納帳、売上帳および買掛け金元帳の記入にもとづいて、下記の間に答えなさい。

現金出納帳

| X8年 |   | 摘要                        | 収入      | 支出      | 残高      |
|-----|---|---------------------------|---------|---------|---------|
| 2   | 1 | 前月繰越                      | 280,000 |         | 280,000 |
| 5   |   | 多摩商店からの仕入の引取運賃支払い         |         | 3,000   | 277,000 |
| 14  |   | 臨時店舗売上げ                   | ( )     | ( )     | ( )     |
| 15  |   | 普通預金口座へ入金                 |         | 350,000 | ( )     |
| 25  |   | 返品運賃支払い（多摩商店負担、掛け金から差し引く） |         | 2,000   | ( )     |

売上帳

| X8年 |    | 摘要                    | 金額      |
|-----|----|-----------------------|---------|
| 2   | 14 | 臨時店舗売上げ               | 現金      |
|     |    | チョコレート 40個 @ ¥ 10,000 | 400,000 |
| 20  |    | インターネット売上げ            | 掛け      |
|     |    | ビスケット 30個 @ ¥ 6,000   | 180,000 |

買掛け金元帳

多摩商店

| X8年 |   | 摘要          | 借方      | 貸方      | 残高      |
|-----|---|-------------|---------|---------|---------|
| 2   | 1 | 前月繰越        |         | 290,000 | 290,000 |
| 5   |   | 仕入れ         |         | 200,000 | 490,000 |
| 25  |   | 返品商品の代金、運賃  | 52,000  |         | 438,000 |
| 27  |   | 普通預金口座から振込み | 290,000 |         | 148,000 |

問 答案用紙の各日付の仕訳を示しなさい。ただし、勘定科目は、次の中から最も適当と思われるものを選び、正確に記入すること。なお、当月末（28日）に現金の帳簿残高と実際有高（¥ 326,000）の差額を現金過不足として処理している。

|      |       |      |      |
|------|-------|------|------|
| 現金   | 現金過不足 | 売掛け金 | 立替金  |
| 買掛け金 | 仕入    | 売上   | 支払運賃 |

### 第3問 (30点)

答案用紙のX7年1月31日の残高試算表と、[X7年2月中の取引]にもとづいて、答案用紙のX7年2月28日の残高試算表を完成しなさい。

#### [X7年2月中の取引]

- 商品 ¥ 500,000 を掛けで仕入れ、当社負担の引取運賃 ¥ 20,000 を現金で支払った。
- 商品 ¥ 800,000 を掛けで売り上げた。
- 売掛け金 ¥ 500,000 が近畿銀行の当座預金口座に振り込まれた。
- 買掛け金 ¥ 130,000 を近畿銀行の当座預金口座から支払った。
- 商品 ¥ 390,000 を掛けで売り上げた。
- 商品 ¥ 450,000 を掛けで仕入れた。
- 所得税の源泉徴収額 ¥ 7,000 を近畿銀行の当座預金口座から納付した。
- 電子記録債権 ¥ 200,000 が決済され、関東銀行の当座預金口座に振り込まれた。
- 電子記録債務 ¥ 120,000 が決済され、関東銀行の当座預金口座から支払われた。
- 売掛け金 ¥ 900,000 について、電子記録債権の発生記録が行われたとの連絡を受けた。
- 前期からの電子記録債権 ¥ 10,000 が貸倒れとなった。貸倒引当金の残高はゼロである。
- 買掛け金 ¥ 700,000 について、電子記録債務の発生記録を行った。
- 受取手形 ¥ 75,000 が決済され、近畿銀行の当座預金口座に振り込まれた。
- 関東銀行の当座預金口座から近畿銀行の当座預金口座に ¥ 50,000 を送金した。
- 支払手形 ¥ 170,000 が決済され、近畿銀行の当座預金口座から引き落とされた。
- 従業員の給料 ¥ 140,000 から所得税の源泉徴収額 ¥ 6,000 を差し引いた残額を関東銀行の当座預金口座から振り込んだ。
- 水道光熱費 ¥ 12,000 および通信費 ¥ 9,000 が関東銀行の当座預金口座から引き落とされた。

## 第4問 (12点)

- 次の文章の（ア）から（カ）にあてはまる最も適切な語句を【語群】から選択し、番号で答えなさい。
- 前期以前に貸倒れとして処理した売掛金について、当期にその一部を回収したときは、その回収金額を収益勘定である（ア）勘定で処理する。
  - 株式会社が繰越利益剰余金を財源として配当を行ったときは、会社法で定められた上限額に達するまでは一定額を（イ）として積み立てなければならない。
  - 主要簿は、仕訳帳と（ウ）のことである。
  - すでに取得済みの有形固定資産の修理、改良などのために支出した金額のうち、その有形固定資産の使用可能期間を延長または価値を増加させる部分を（エ）支出という。
  - 当期中に生じた収益合計から費用合計を差し引いて当期純利益（または当期純損失）を求める計算方法を（オ）という。
  - 仕訳の内容を勘定口座に記入する手続きを（カ）という。

## [語群]

- ① 資本金 ② 総勘定元帳 ③ 分記法 ④ 転記法 ⑤ 合計残高試算表  
 ⑥ 収益的 ⑦ 損益法 ⑧ 貸倒引当金戻入 ⑨ 差入保証金 ⑩ 資本的  
 ⑪ 利益準備金 ⑫ 決算算定 ⑬ 精算表 ⑭ 財産法 ⑮ 債却債権取立益  
 ⑯ 摘制的 ⑰ 締切り ⑱ 受取手数料

## 第5問 (30点)

次の(1)決算整理前残高試算表および(2)決算整理事項等にもとづいて、答案用紙の貸借対照表および損益計算書を完成しなさい。なお、会計期間は4月1日から翌3月31日までの1年間である。

(1) 決算整理前残高試算表

| 借 方        | 勘 定 科 目       | 貸 方        |
|------------|---------------|------------|
| 310,000    | 現 金           |            |
| 550,000    | 普 通 預 金       |            |
| 770,000    | 売 掛 金         |            |
| 650,000    | 仮 払 消 費 税     |            |
| 440,000    | 繰 越 商 品       |            |
| 2,200,000  | 建 物           |            |
| 600,000    | 備 品           |            |
| 2,000,000  | 土 地           |            |
|            | 買 掛 金         | 630,000    |
|            | 借 入 金         | 1,500,000  |
|            | 仮 受 金         | 69,400     |
|            | 仮 受 消 費 税     | 1,001,000  |
|            | 所 得 税 預 り 金   | 18,000     |
|            | 貸 倒 引 当 金     | 3,000      |
|            | 建物減価償却累計額     | 200,000    |
|            | 備品減価償却累計額     | 299,999    |
|            | 資 本 金         | 3,000,000  |
|            | 繰 越 利 益 剰 余 金 | 248,601    |
|            | 売 上           | 10,010,000 |
| 6,500,000  | 仕 入           |            |
| 2,200,000  | 給 料           |            |
| 200,000    | 法 定 福 利 費     |            |
| 60,000     | 支 払 手 数 料     |            |
| 150,000    | 租 税 公 課       |            |
| 100,000    | 支 払 利 息       |            |
| 250,000    | そ の 他 費 用     |            |
| 16,980,000 |               | 16,980,000 |

(2) 決算整理事項等

- 仮受金は、得意先からの売掛金 ¥ 70,000 の振込みであることが判明した。なお、振込額と売掛金の差額は当社負担の振込手数料（問題の便宜上、この振込手数料には消費税が課されないものとする）であり、入金時に振込額を仮受金として処理したのみである。
- 売掛金の期末残高に対して貸倒引当金を差額補充法により 1 % 設定する。
- 期末商品棚卸高は ¥ 400,000 である。
- 有形固定資産について、次の要領で定額法により減価償却を行う。  
建物：耐用年数22年 残存価額ゼロ  
備品：耐用年数4年 残存価額ゼロ  
なお、決算整理前残高試算表の備品 ¥ 600,000 のうち ¥ 200,000 は昨年度にすでに耐用年数をむかえて減価償却を終了している。そこで、今年度は備品に関して残りの ¥ 400,000 についてのみ減価償却を行う。
- 消費税の処理（税抜方式）を行う。
- 社会保険料の当社負担分 ¥ 10,000 を未払い計上する。
- 借入金は当期の12月1日に期間1年、利率年4%で借り入れたものであり、借入時にすべての利息が差し引かれた金額を受け取っている。そこで、利息について月割により適切に処理する。
- 未払法人税等 ¥ 200,000 を計上する。なお、当期に中間納付はしていない。

解答は、すべて答案用紙に記入して必ず提出してください。

## 3級

2019年度  
第154回簿記検定試験  
問題用紙

(午前9時開始 制限時間 2時間)

(2020年2月23日(日)施行)

日本商工会議所  
各地商工会議所

## 受験者への注意事項

- 答案用紙は、持ち帰りできませんので必ず提出してください。持ち帰った場合は失格となり、以後の受験をお断りする場合があります。
- 答えは、定められたところに、誤字・脱字のないよう、ていねいに書いてください。
- 答案の記入にあたっては、黒鉛筆または黒シャープペンシルを使用してください。